

平成20年度第2回太田地域協議会会議録

◆日時：平成20年8月26日（火）午後1時30分～

◆会場：太田文化プラザ「多目的ホール」

◆案件

(1) ワークショップ

- ・未来を創り心豊かな人を育むまちづくり（教育分野）
- ・生き活きと希望を持って活躍できるまちづくり（産業分野）
- ・計画の推進にあたって（財政運営・市民との協働）

(2) 市長との意見交換について

◆出席した委員の氏名

出席委員 11人

大信田弘喜、大信田康雄、加藤 進、草薨太郎、倉田良子、小松 誠、鈴木弘之、鷹觜信行、田口誠毅、福原榮司、藤原鈴司

欠席委員 5人

伊藤昭子、小松一男、泉 澄彦、野中シゲ子、藤澤由希子

◆職員（太田総合支所）

大信田 哲 男（太田総合支所長）
高 橋 共 男（地域振興課長）
高 貝 清 一（地域振興課参事）
加 藤 カ ヨ（地域振興課副主幹）
細 井 誠 （地域振興課主任）

（午後1時30分開会）

○高橋共男地域振興課長（以下「地域振興課長」と表記）

ただいまから、平成20年度第2回目の地域協議会を開催します。本日は委員の2分の1以上の委員から出席いただいておりますので、本会が成立いたしますことをご報告します。

それでは会長からご挨拶をお願いします。

○加藤進会長（以下「会長」と表記）

本日はたいへんご苦勞様でございます。秋の収穫を控え、みなさんお急がしのところご出席くださいますことありがとうございます。今回の地域協議会の協議内容は地域振興計画作成ワークショップ（第3回目）と、それが終わり次第、市長との意見交換について事務局から説明がありますので、よろしく申し上げます。

○地域振興課長

ありがとうございました。それでは次に大信田哲男太田総合支所長が委員の皆様にごあいさつ申し上げます。

○大信田哲男太田総合支所長（以下「支所長」と表記）

本日は、太田地域振興計画作成の第3回目のワークショップということで委員のみなさまにはたいへんご難儀をおかけします。

（このほか、今後予定されている太田地域の行事等について）

○地域振興課長

それでは、協議事項に入ります。進行は、会長にお願いいたします。

○会長

会議録署名委員を指名します。藤原委員、大信田委員にお願いします。それでは、本日の協議内容1点目、太田振興計画ワークショップについてであります。事務局から説明をお願いします。

○事務局

今回のワークショップは昨年の第1回目から引き続き、前回6月が2回目、今回が3回目であります。

今回のそれぞれのワークショップの題目（テーマ）は、1班が教育分野、2班が産業分野であります。そのほか、両班とも財政運営のあり方と市民と行政との協働について、委員の目線から提言をいただきたいものであります。お手数ですが、テーブルをご移動いただき、各班で協議をいただきたいと存じます。

1班は草薨太郎委員、2班は藤原鈴司委員に班長を勤めていただき、たいへんご難儀をおかけしますが、各班の進行方よろしく申し上げます。

（このあとワークショップが実施され、終了後、各班長からワークショップで出された意見などについて次のとおり報告）

○草薨太郎委員（以下「1班班長」と表記）

私たちの班では、学校教育の充実、生涯学習の推進など、たいへん広くてつかみどころのないようなテーマであり、十人十色の教育論があり、特に意見をまとめる段階にはいたりませんでした。幸いなことに旧太田町には体育施設、生涯学習施設が充実していることから、最大限に既存施設を活かしていき、豊かな地域づくりにつなげていくべき

であるといったところを切り口として、さまざまな意見を出し合いました。

はじめに学校教育の充実について、先生のあり方が問題として取り上げました。先生からは学校の中にとどまらず、地域内の一員として地域内でも教育していただければ、より良くなっていくのではないかと。

また、子供が良くなるためには親が良くなければならないといった意見も出され、親も学習する機会として学社連携の充実が必要だとの意見も出されました。

学校の統廃合については、少子化が今後ますます進むことは考えられますが、小学校は地域のシンボルであり、現状の維持に努めてほしいし、経費の面からは維持管理費がかかっていくことではありますが、統廃合するとしても必要最小限にとどめてほしい。地域の灯を消さないでほしいといった意見が出されました。

文科省等の画一的な方針（要項等）により、学校教育を進めていただいていると思われるが、子供の個々の能力を活かす（引き出す）教育のあり方といった考え方も必要なのではといった意見も出されました。

生涯学習の推進については、公民館活動の充実、現在の活動の継続し、特に太田地域は花のまちといったことから、花いっぱい運動を絶やさず、盛り上げてほしい。また、りっぱな太田町史の編さんを機に歴史を学ぶ機運が高まっていることから、歴史教育の機会の充実も図ってほしい。

有形・無形問わず、地域のさまざまな文化財の保全や地域の住民への周知を図ってほしい。

スポーツ・レクリエーションについては、奥羽山荘周辺や太田スポーツパークなど充実した施設をフル活用できる活動・取り組みを図ってほしい。

真木溪谷や薬師岳など全国的に知られた景勝地など県立自然公園の資源の活用を図るため、インターネットなどを利用して情報発信してほしい。

芸術文化分野については、おはら節大会やグラウンド・ゴルフ大会などのように、全国レベルのイベントの開催により地域の活性化や地域の周知（発信）が必要である。

最後に余暇時間の充実には、景気の回復がなければ地域の活性化もならないなどの意見も出されました。

このほかにもさまざまな意見が出されましたが、時間制限もあるでしょうからこのへんで1班の報告を終わります。

○藤原鈴司委員（以下「2班班長」と表記）

2班は、産業分野について意見交換しました。

農林水産業・商工・工業・観光の振興、雇用安定、就労の推進について、こちらも広いテーマでまとめるのはたいへんでありましたが、つぎのような意見が出されました。

はじめに住民の心の育成がひとつの大きなテーマでありました。地域で解決したほうが効率的であるといった心の育成に係る取り組みとして、地域住民が協働意識（精神）をもう少し高めていかなければならない。例えば、環境保全事業（農地・水）があるが、補助金ありきになってしまい、労務費を伴わなければ地域活動をしなくなる危険性があるのではないかと。自分たちで地域を創っていくためには、金銭とは切り離していくといった精神を育てなければならぬのではないかと。そのようなことを念頭に、最初に出されたのが観光方面についてです。宣伝大使を設置し、太田をPRしていく。太田に

は観光施設がたくさんあるのだが、残念ながら滞在型でなく通過型の施設がほとんどあります。通過する観光客をいかにして捕まえる施策を練っていく必要があるのではないかと。例えば川口溪谷に魚を放流し、釣り客を呼び込むことなどが考えられます。また、花をいかした誘客を図るため、観光施設を花で結び、奥羽山荘に中里温泉に行くには水仙ロードを通るとか、どこそこに行くにはコスモスが咲いている道路をいってくださいなど、観光客にアピールするような拠点を作っていく必要があるのではないのでしょうか。

秋まつりについては、今あるイベントを発展・充実にむけた取り組みを行い、地域の活性化につなげていくべきであります。

特産物については、たとえば枝豆や曲がりねぎなどたくさんあるにはあるが、本当に特産物として外に言い切れるかといった意見も出され、もっと積極的に情報発信（PR）するなど、もう一步踏み込んだ取り組みが必要と思います。複数のものは必要なく、「特産物はこれ」という風に、ひとつのものにより絞り込んでいかなければならないと感じられます。

行政側にもお願いしたいことですが、耕作放棄地について、担い手育成を含めて減少を図らなければいけないと思われるし、環境保全事業で金銭を受けなければ整備も進まないというのは本末転倒である。

太田は、ほ場整備が進んでいないため、担い手不足に繋がっているのではないかと。推進に努めてほしい。

もうひとつは、施設の維持管理がいまひとつである。例えば大台スキー場のオリエンテーリングコースなどは雑草が繁茂している。施設を作るだけでなく、維持管理に係る対応を早急に検討していかなければならないのではないかと。行政側に頼るだけでなく、施設利用者である地域の住民も協働の精神を持って取り組んでいかなければならない。

地域の活性化に向けて、地域振興券のような地域で使える商品券の充実させることが大切ではないだろうか。地域の活性化のために、地域内にお金が落ちる取り組みを推進していったほうが良いと考えられる、といった意見が出されました。

以上、具体的なものから、精神的なものまでさまざまな意見が出され、それらを紹介させていただきました。

（もう1点の論点である計画の推進にあたっての協働のあり方、市の財政運営のあり方について

○2 班班長

財政が厳しいのは理解できるので、既存施設を適切に維持管理し、大切に使うと、心の問題に結びつくものであります。ボランティア精神の醸成を図り、維持管理を行き届けさせるために、市民（利用者）が清掃等を行うことで多少の経費削減が図られるのではないかと。

各学校ではアルミ缶の回収などの取り組みを行っているが、拠点ごとでの取り組みでなく地域全体に普及させていくことが必要なのではないかと。たとえば、各誘致企業でしっかりゴミの分別し、アルミ缶を集めるなど取り組むことによって学校とのつながりができてくるのではないかと。

昔からある道路愛護・河川愛護はボランティア精神の醸成のためにも継続していかな

ければならないと思います。

また、今ある施設をより積極的に利用していく。利用がなければ切り捨てられると考えられるので、今あるものをいかに有効利用していくかがカギを握ると考えられます。

○1 班班長

協働という言葉は堅苦しいように感じられ、昔からある「ゆい」という表現でよいのではないかと、というのが第1点目でありました。

また、一言で「協働」といっても、行政側から市民に何を求めているのか、なにができるのか、具体的に示してもらわなければ活動もしづらいのでは、との意見も出されました。

財政運営のあり方については、財政が厳しいということであるが、合併後、広くなりすぎてどの分野に金をかけるべきか、わかりづらくなった、というのが全体的な印象であり、もともと財政面で厳しい市町村が合併したことにより効率化を図っていかなければならないというのは分かるが、広くなりすぎて目が届かない面も多くあるように感じられるので、全体だけでなく、各地域の収支予算・決算などがあれば分かりやすいのでは、といった意見も出されました。また、旧大曲の市街地再開発がどうしても目立っている状況であり、それ以外の地域(ソフト面の充実)にも金をかけるべきではないか。

太田にはこのような財産があり、このようにしていきたいというビジョンがあることだと思いますので、より具体的に市民にこの部分を担ってほしいということを経営発信し、示してもらいたい。

たとえば、太田にはこれらの施設があり、今後ますます厳しくなる財政の中で継続して維持管理していくために、市民はどういったことをしていけばいいか具体的に示してもらえば、協力できる体制ができるのではないかと、といった意見も出されました。

また、今後の地域協議会のあり方といったところですが、この振興計画は、今後どのような位置づけになっていくのか。この計画をどのように具体化し、地域に落とし込んでいくのか、定まっていないうように感じる。また、地域協議会の活動について、より具体的に透明性を持つべきであり、存在意義をどう位置づけしていくか検討していかなければならないのではないかと、といった意見も出されました。

最後に私個人の意見であります。財政の効率化を図る取り組みのひとつとして、合併前は行政協力員の手により配布されていた選挙の入場券の配布について、合併後は郵送されてきます。方法などを見直せば経費削減に繋がることが多数あるのではないかと、小さなことでも取り組むことにより、無駄を省くことができると感じられます。

○地域振興課長

3回にわたるワークショップ、たいへんありがとうございました。今回まで示していただいた提言等をまとめて、地域振興課で振興計画の素案を作成し、みなさんから検討していただきたいと考えている。今後、大仙市総合計画実施計画案を見直していくことになるが、総合支所各課にもその振興計画と一体となる(整合した)形で進めるよう周知していきたいと考えている。

それでは、これでワークショップを終わります。

○会長

これまで3回のワークショップを重ねてきて、提言をまとめることができた。次回の協議会でみなさんから出された意見等を集約していきたい。

次に事務局から大仙市地域協議会全体研修についてご説明をお願いします。

(資料に基づき、平成20年度大仙市地域協議会全体研修について事務局が説明)

○会長

市長との意見交換について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

総合政策課から、今年度は、2回ほど開催したいとの連絡が入っていて、1回目は市への提言ということで、地域の課題解消に向けた取り組みなど、市長と意見交換する機会とし、10月から11月にかけて開催したいと考えている。

昨年は、事前に事務局に提出していただいて、内容を精査し、地域協議会の総意としたうえで、市長に提出する形としているが、いかがでしょうか。

○会長

ただいま事務局から説明がありましたが、みなさんからなにか意見等ありませんでしょうか。

○大信田康雄委員（以下「大信田（康）委員」と表記）

今回の協議会まで意見を提出して検討する機会は設けないものと認識していたが、事務局からそういった機会を設けていただけるとのこと、次回まで委員の皆さんから検討してもらいたいとの意味合いで、日ごろから感じている意見について述べたいと思います。

真木ダムの代替案として、県の代替計画は相当の経費で進捗しているようであるが、私個人の意見として真木の関根頭首工をかさ上げしてある程度貯水できる設備にすると市なり議会なりに要望していくべきと考えているが、地域協議会の総意ということで、そういうことはやめたほうが良いといった意見もあるかも分かりませんので、検討していただきたいのですが。

○会長

大信田委員から、玉川の水をもってきて飲料水の確保を図るとすれば、たいへんな経費がかかり、関根の頭首工をかさ上げしてある程度貯水するといった意見でありましたが、たしかに経費は低く抑えられるものと思われませんが、中仙地域との兼ね合いもあります。委員のみなさんから何かありますか。

○大信田（康）委員

ここで結論を出すようなものではないでしょうから。昔（昭和47年ごろまで）秋田市では旭川に大きな堤防を設けて秋田市内の水道を網羅していた。

そこまで大きなものではなくて良いと思うが、経費もかなり抑えられることから、地域協議会の案として、提案したらいかがかと思う。今回欠席している委員もいることから、次回の協議会まで検討していただいて、太田地域協議会単独で要望書なり提出したほうが良いと思う。

○会長

今の太信田委員の意見を受けて、次回までみなさんで検討してもらおうことでいかがでしょうか。

(各委員から異議なしの声あり)

○事務局

10月から11月の意見交換会を開催し、市長への提言を提案することであり、9月中旬に次回の地域協議会を開催することになる。したがって、提言として提出する事項については、各委員から9月中旬まで提出していただきたい。

○会長

その他について、委員のみなさんからなにかありますか。

○小松 誠委員 (以下「小松委員」と表記)

真木真昼県立自然公園管理員の倉田さんのホームページで得た情報だが、真木林道が工事のため通行規制がかかっているようであるが、状況を教えてほしい。

(事務局から工事及び通行規制の状況について説明)

○会長

これで今回の地域協議会を終わります。長時間ごくろうさまでした。

会議録署名委員
